

平成8年9月11日

"残紙からできた再生ノートを海外・区内の子どもたちにプレゼント"

豊島区では、開発途上国の子どもの学習に役立てたいと、区の地場産業である印刷業界と連携し、印刷の残り紙（ヤレ紙、残紙）から作成したリサイクル・ノート3万冊を開発途上国へ寄贈するため、11日、同区役所で豊島区印刷関連産業団体協議会からノートの引き渡しを受けるとともに、（財）ジョイセフ（家族計画国際協力財団）への寄贈がおこなわれた。

送られるのは、A4版64ページの無地のノート。豊島区では、全国に先駆けて（財）ジョイセフを通じた再生自転車の海外譲与の10年近い歴史がある。

リサイクル・ノートも、資源の有効活用とリサイクル意識の啓発だけでなく、ノートが不足している開発途上国への海外支援になればと平成5年度から始められたもので、輸送にあたっては、再生自転車海外譲与自治体連絡会（ムコーバ）が出荷する再生自転車のコンテナに混載し、順次、船便で送られている。

今回の寄贈で、海外に渡る再生ノートは計11万冊にのぼり、今までに、ガーナ、タンザニアなど、延べ14か国へ送られている。

豊島区印刷関連産業団体協議会会長の藤井氏は、「今年は、例年に増して多い17トン以上の残り紙を会員の協力で集めることができました。こうした海外支援は、継続こそが力になります。これからも、できるかぎり支援を続けていきたい」と力強く語った。

また、（財）ジョイセフからは参与の尾崎氏が「このような地球資源を活用したリサイクルノートの援助は、ほかにはありません。皆さんの好意を心をこめて、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国へお送りします。」とお礼の言葉を述べた。

豊島区では、「豊島区印刷関連リサイクル事業」として、今回5万冊を作成しており、そのうち、ヤレ紙から作った2万冊は区内の児童・生徒などに配付され、また、残紙で作った3万冊は、ジョイセフを通じて、発展途上国の子どものために配られる。

*ヤレ紙・・・印刷を失敗した紙。

*残紙・・・印刷製本の過程で発生する端紙や残り紙。印刷をしていない紙。

<各団体の役割>

- (1) 豊島区印刷関連産業団体協議会（区内7団体を統括、185社加入）
 - ・ヤレ紙、残紙のストック
 - ・ノートの作成（表紙印刷、製本）
- (2) 同栄資源回収事業共同組合
 - ・ヤレ紙の回収及び製紙工場への運搬
- (3) (財) ジョイセフ（家族計画国際協力財団）
 - ・発展途上国への寄贈窓口
- (4) 豊島区
 - ・ヤレ紙の回収及び製紙工場への運搬費用の負担
 - ・ヤレ紙の再生化経費の負担
 - ・ノートの作成費用の負担

詳細 リサイクル事業課長